

## 生活支援技術Ⅳ

担当教員 馬場 敏彰、吉岡 久美

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

利用者体験を通して、援助者としての資質向上に努めることができる。  
入浴介助における生活支援の技術について、具体的な方法と支援を学び、安全の確保と快適な支援について理解を深めると同時に援助場面でのスキルを身につける。

## 【授業の展開計画】

詳細な授業計画および準備物等については、第1回目の講義で説明する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	一連の生活支援技術(見守り 一部介助)	16	清潔保持の介助の技法(洗髪介護の方法)
2	一連の生活支援技術(全介助)	17	利用者の状態・状況に応じた介助の留意点
3	自立に向けた入浴のアセスメント	18	利用者の状態・状況に応じた介助の方法
4	ICFの視点にもとづいたアセスメント	19	利用者の状態・状況に応じた介助の演習
5	爽快感・安楽を支える入浴介護の意義	20	利用者の状態・状況に応じた介助のまとめ
6	爽快感・安楽を支える介護の工夫	21	一連の生活支援技術(見守り 一部介助)
7	清潔保持の介助の技法(入浴介護の留意点)	22	一連の生活支援技術(全介助)
8	清潔保持の介助の技法(入浴介護の方法)	23	健康状態確認技法
9	清潔保持の介助(シャワー浴介護の留意点)	24	状態状況別生活支援技術(視覚障害)
10	清潔保持の介助(シャワー浴介護の方法)	25	状態状況別生活支援技術(聴覚・言語障害)
11	清潔保持の介助の技法(清拭介護の留意点)	26	状態状況別生活支援技術(グループ演習)
12	清潔保持の介助の技法(清拭介護の方法)	27	状態状況別支援技術 運動機能障害の理解
13	清潔保持の介助(部分浴介護の留意点)	28	状態状況別生活支援技術(発達障害)
14	清潔保持の介助の技法(部分浴介護の方法)	29	状態状況別支援技術 運動器疾患による障害
15	清潔保持の介助の技法(洗髪介護の留意点)	30	状態状況別支援技術 脳血管障害・神経疾患

## 【履修上の注意事項】

授業前にテキスト等で、事前学習を行うこと。演習後のレポートは、期限までに提出すること。レポートを通して復習を行い、自分の技術習得の状況を振り返りを行うこと。演習では、決められた服装等を準備すること。

## 【評価方法】

期末評価(筆記試験・実技試験) 80%、提出物 10%、出席状況や授業への取り組み態度 10%

## 【テキスト】

介護福祉士養成講座編集『生活支援技術Ⅱ』中央法規 最新版

## 【参考文献】

適宜提示する。